

# 渋谷を舞台に多様性を学ぶ！ 多様性輝く SHIBUYA を創る！

～これからのグローバル教育講座～



全体統括：松下 慶太氏  
実践女子大学 人間社会学部 人間社会学科 准教授

レポート  
第3回 2014.  
7.19  
[sat]

## 多様性輝く国際文化都市・渋谷 SHIBUYA とは？（応用編）

多様性について学び、渋谷を「多くの人々が自分らしく個性を発揮できる街」にするためにどうしたらよいのか考えて行動につなげる本講座。

全3回の集大成となる今回は、実践女子大学学生と社会人の方々30名が参加しました。まず、「LGBT／障がい／グローバル／宗教」のテーマごとにコースを設定し、キャンパスから外へ飛び出して「街歩き」を実施。渋谷の街で多様性を感じ、それぞれのテーマについて理解を深めました。その後、グループ発表で経験を共有。最後に、「渋谷の未来に向けたギフト」として、今回受講して感じたことや考えたこと、自分がこれから取り組みたいことなどを参加者一人ひとりが発信しました。

\*本講座は、(一般社団法人)グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)との協働プロジェクトとして開発、開催いたしました。



研修コーディネーター：  
辰野まどか氏

一般社団法人 グローバル教育推進  
プロジェクト (GiFT) 事務局長

### ◆街歩き

第2回目で行われた提案をもとに、松下ゼミの学生が街歩きのプランを立案。参加者は希望のテーマに分かれ、ゼミ学生の引率のもと、渋谷の街中にある目的地へ向かいました。街歩きの様子はリアルタイムで Twitter にアップされました。



▲街歩きの中で「多様性」を感じたシーンを Twitter で紹介。

#### テーマ①LGBT

##### 「渋谷の街を、同性同士で手をつないで歩く」

【行き先】東京国際レズビアン&ゲイ映画祭 (スパイラルホール)

表参道のスパイラルホールで行われている「東京国際レズビアン&ゲイ映画祭」に行き、どのような人が、どのようなスタイルで来ているのかを見る。帰りは渋谷の街中を同性同士で手をつないで歩き、周囲の反応や自分が感じたことを共有する。



#### テーマ③グローバル

##### 「渋谷の中心地で異文化を体験し知らない世界を知る」

【行き先】ブラジルフェスティバル 2014 (代々木公園)

ブラジル文化について理解を深めるイベント「ブラジルフェスティバル」に行き、出展されているブースを見たり食を体験したりして異文化に触れる。また、来場している外国人に「あなたにとって渋谷とは」「母国と日本の違い」についてインタビューする。



#### テーマ②障がい

##### 「視覚を封じて街を歩き、音とにおいを感じる」

【行き先】渋谷駅前のスクランブル交差点

2人1組になり、1人がアイマスクをしよう1人が補助役となって渋谷駅前のスクランブル交差点に向かう。道中では音やにおいを意識し、感じた場所を補助役が地図に記す。また、スクランブル交差点には障がいを持つ人がどれくらいいるかも観察する。



#### テーマ④宗教

##### 「日本人になじみのないイスラム教について知る」

【行き先】東京ジャーミイ (代々木上原)

第2回目にもゲストとして参加して下さったサビ アハメッドさんの案内のもと、日本最大のモスク(イスラム教の礼拝堂)「東京ジャーミイ」を訪ねる。また、ムサビさんに礼拝の様子を見せていただき、イスラム教について理解を深める。





## ◆グループ発表

街歩きの中で参加者たちが感じたことや考えたことをテーマごとに発表。渋谷を多様性豊かな街にするための提言も行われました。また、ゼミ学生が街歩きの間に撮影し、編集したムービーも上映されました。

### テーマ①LGBT

映画祭に来ているLGBTの方々は思い思いの格好をしていて、とてもイキイキしていた。同性同士や異性間といったことは関係なく、愛は普遍的なものだと改めて感じた。帰りは同性同士で手をつないで街を歩いたが、周囲の目がとても気になった。特に同世代の方々にじっと見られたりするとドキリとした。



#### ■多様性輝く渋谷を実現するために

今回私たちが同性同士で手をつなぎ歩いた時のように、LGBTの人が受けている周囲の反応を多くの人が体験してみるのもよいのではないかと。映画祭会場で紹介されていた「人の数ほどさまざまな存在する『愛』は人生の多様さそのもの」という言葉のように個性を受けとめる社会をつくりたい。

### テーマ②障がい

アイマスクをして歩き、普段自分がどれだけ視覚による情報に頼っているかに気づいた。一方、補助役もさまざまな技術を要し、大変だということがわかった。スクランブル交差点では障がいを持つ人がいるか観察した。杖をついている方が人を避けて端の方を歩いており、障がいのある方にとってあの交差点は利用しづらいのではないかと感じた。



#### ■多様性輝く渋谷を実現するために

まず、困っている人を見かけたら声をかけることが当たり前になるようにしていきたい。それから、障がいを持つ人が暮らしやすい街づくりをもっと進めたらよいと思う。障がいを持つ人と交流する機会が増えれば、よりよいサポートの仕方も広がっていくのではないだろうか。

### テーマ③グローバル

フェスティバルには国籍を問わず多くの人に来ていた。現地でのインタビューでは、渋谷については「にぎやかでショッピングや食が楽しめる街」、母国と日本の違いについては「日本は安全で、フレンドリーな人が多い」といった声が寄せられた。ブラジルの食もいろいろと体験したが、揚げ物やアルコールが多い点に日本との違いを感じた。



#### ■多様性輝く渋谷を実現するために

ブラジルフェスティバルのように限られた空間ではなく、街全体をオリエンテーリングのフィールドのようにして、いろいろな国の人とフリートークができる場としていけばいいのではないかと思った。幅広い人と気軽に話せるようになれば、渋谷はもっとグローバルな街になると感じる。

### テーマ④宗教

肌を出していたりミニスカートを履いている女性はスカーフやロングスカートの着用を求められたり、モスクを汚さないためにイスラム教徒は礼拝前に手を清める決まりがあるなど、文化の違いを体感した。また、想像以上に多くの日本人が訪れていることにも驚いた。日本人の中にも、意外に多くのイスラム教徒がいることを初めて意識した。



#### ■多様性輝く渋谷を実現するために

いろいろな宗教や文化に触れる機会を増やし、理解しようとする姿勢を持つことが大切だと感じた。また、スーパーや飲食店などの協力を得て、礼拝ができるスペースを渋谷の中に何箇所か用意すると、イスラム教を始めさまざまな信仰を持つ人が過ごしやすくなるのでは、と思う。

## 未来へのギフト

これまで学んだことや体験したことを踏まえ、未来の渋谷や次の世代のために、何を大切にし、どんなことを実行していくか。参加者全員がカードにメッセージをまとめ、輪をつかって発表していきました。

#### 【例えば、こんなメッセージが発信されました（一部抜粋）】

- あらゆる人との交流を大切にします。
- 違うことを当たり前だと受け入れ、助けることを習慣にする。
- 「まず行動する」ことを大切にします。
- 何事に対しても最初から偏見を持たない。
- 個性を理解し合って、それを活かす。
- 今回のような場に積極的に参加し、発見していく。

全3回の講座から生み出された気づきや提案などをまとめ、8月下旬、松下ゼミの学生は長谷部健 渋谷区議会議員に「多様性輝く SHIBUYA」の実現に向けたプレゼンテーションを行う予定です。

## 【公開講座アンケートより（一部抜粋）】

「視野が広がった」「この経験を今後活かしたい」という声が多数寄せられました。

#### ●～19歳・学生

これまで宗教についてよく知らず、障がい者の方と関わることもなかった。LGBTという言葉も今回初めて知った。これからは今日のような場にどんどん参加して発信していきたい。

#### ●～19歳・学生

まず自分が渋谷のことをたくさん知りたい。そして知ったことをいろいろな人とシェアして、輪を大きく広げていけたらいいと思う。

#### ●20歳代・学生

もっとこういう機会が増えればよいと思った。とても楽しかったし、貴重な時間と経験をこれから活かしていきたいと考えている。

